

平成22年教育委員会第5回定例会会議録

開会日時 平成22年5月11日 午前10時00分

閉会日時 同 上 午前11時00分

場 所 教育委員会室

出席委員 委員長 遠藤 勝男
同職務代理 佐藤 昭
委員 面田 博子
委員 松本 實
委員 秋本 則子
教育長 山崎 喜久雄

議場出席委員

・教育次長	内山 利之	・教育振興担当部長	吉田 義仁
・庶務課長	駒井 正美	・教育計画推進担当課長	木佐森 茂
・施設課長	齋藤 登	・学務課長	土肥 直人
・指導室長	平沢 安正	・統括指導主事	江田 真朗
・地域教育課長	今關総一郎	・生涯学習課長	宮地 智弘
・生涯スポーツ課長	柴田 賢司	・中央図書館長	梅田 義郎

書 記

・企画係長 平井 大介

開会宣言 委員長 遠藤 勝男 午前10時00分 開会を宣する。

署名委員 委員 遠藤 勝男 委員 佐藤 昭 委員 山崎 喜久雄

以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

○委員長 皆様、おはようございます。

○全員 おはようございます。

○委員長 ただいまより、平成22年教育委員会第5回定例会を開会いたします。

きょうの請願・陳情・議案はございません。

早速であります。報告事項が5件ございまして、報告事項から入りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

報告事項等1「平成22年度学校選択状況について」、ご説明をお願いいたします。

学務課長。

○学務課長 それでは、「平成22年度学校選択状況について」、ご報告いたします。

まず、新小学1年生の学校選択状況でございます。下から2行目、合計欄のほうをごらんください。平成22年4月7日現在の就学数でございますが、こちらが3,423人で、前年と比較いたしますと27人の増。うち、通学区域内からの就学数は2,696人で、前年比29人の増。区域外からの就学数は727人で、前年と比較いたしますと2人減っております。区域外から就学した割合は21.2%でございます。前年比0.3ポイントの減でございます。なお、他の通学区域からの就学が多かった小学校を順に挙げますと、まず40番にございます中青戸小学校、2番目が50番にあります上小松小学校、3番目が17番にございます道上小となっております。ちなみに去年は金町小、道上小、柴又小の順でございました。

次に、裏面をお開きください。新中学1年生の学校選択状況でございます。同様に、平成22年4月7日現在の合計でございますが、就学数は2,990人で、前年比24人の増。うち、通学区域内からの就学数は2,046人で、前年比69人の減。通学区域外からの就学数は944人で、前年比93人の増でございます。区域外から就学した割合は31.6%でございます。前年と比較いたしますと、こちらは2.9%の増でございます。なお、中学校では、昨年同様、本田中学校と亀有中学校の2校が抽選となっております。補欠登録者の一部、本田中については7人、亀有中については17人が残念ながら希望の学校に進学できずに他の区立学校に就学をいたしてございます。

説明につきましては以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま学務課長からご説明がありました件につきまして、ご質問等がございましたら願ひいたします。

松本委員。

○松本委員 私は、「未来を見据えた学校づくり検討委員会報告書」にかかわって発言をしたいと思ひます。

報告書の53ページに、「望ましい規模の学校の実現に向けて」が書いてありまして、その中の(2)「学校選択制との関係」というところにこう書いてあります。一部を読ませていただきます。「学校選択制は、児童・生徒が区立学校に入学する際に、自分に適した学校を選び、意欲を持って勉強や学校行事に取り組み、自らの能力を伸ばせるようにするために実施している。具体的な学校選択は児童・生徒や保護者が様々な理由から行うものであり、その結果として、希望者が多い学校と希望者の少ない学校が出現し、望ましい規模を下回る学校が出てくることもある。このような小規模校については、通学区域内の児童・生徒数の動向を把握し、これを基本とする一方で、その学校が選択されていない原因や背景を多角的に検証した上で、適切な対応をしていく必要がある」と書いてあります。

そこで、本日配付された資料と、昨年と一昨年の資料を見まして、一番左に書いてあります学区住民登録人数と、右から4番目に書いてある4月7日に実際に区域内で入学した人数を比較検討してみました。そこで、その数が50%以下で小規模校になっている学校を調べてみました。そうしましたところ、小学校が3校、6番と27番と29番でした。それから、中学校も3年間の中でそうになっているのが3校ありまして、8番、13番、18番でした。それから、中学校の下限の許容範囲の9クラスになっている学校で、1校だけ、23番なのですけれども、3年間で約3分の1しかとどまっていないという状況がありました。これを見ますと、先ほどの「未来を見据えた学校づくり検討委員会報告書」の中に書いてありますように、これらの学校については、その背景や原因、そしてどこに流れているのかということを検証しておいたほうがよいと思います。そして、必要があれば対応していかなければならないのかと考えます。

また、先日、校長の教育振興ビジョンの自己評価を見たときに、幼・保、幼・小の連携とか、小・中の連携の評価が低かったことや、学校地域応援団の評価も低い原因の一つはこのこともあるのかなと私は考えましたけれども、いかがでしょうか。

以上です。

○委員長 学務課長。

○学務課長 「未来を見据えた学校づくり検討委員会報告書」では、今ご指摘いただきましたとおりの記述がございます。私どもも、毎年こうした学校選択を実施しているわけですが、どこの学校に人が集中し、どこの学校から人が流れてしまっているのかという状況については逐一把握をしているところでございます。具体的な形としましては、例えばどこの中学校にはどこの中学校の通学区域から何人来ているのかというような状況を毎年経年で把握しているところでございます。

ご指摘いただいた——個別に挙げるといろいろ課題もありますので、幾つかの原因があるのかというふうに考えてございます。もちろん、肯定的な理由で、クラブ活動がここしかないとか、ここが強いからここに行きたいとか、そういったクラブ活動で選択をされるというのが現

状としては多いわけでございますけれども、そのほかには、例えば地理的条件。これは環七を挟んでいる学校に特にその傾向があるのですけれども、そうした地理的条件ですとか、あとは、これは特に小学校のほうですが、そもそも通学区域内の人数、人口が減少しているという区域もございます。また、どことは申しませんが、個別の課題を抱えていて、それがまだ十分に解決が図られていないような学校がございますのも事実で、そうしたそれぞれの要件の結果、現状の人気のある学校と申しますか、人が集まっている学校と人が出ていってしまう学校が出てきているということも把握しているところでございます。当然それらについては、肯定的な理由で選択されている学校については、もっと頑張ってくださいということで応援するわけですが、いろいろ課題があるとかというようなことがわかれば、そこへ手当てをしていく必要があろうかなというふうに考えているところでございます。

以上です。

○委員長 そのほかございますか。

面田委員。

○面田委員 では、二つお願いします。

たしか小学校のほうは東金町小学校だったか、学区域が少し変わりました、というようなことで、そのあたりがどういうふう到此へ出ているかと伺いたいということが一つ。

もう一つは、中学のほうで、子どもたちはこういうことでこの学校に行きたいと。先ほどのクラブもそうでしょうし、地理的なこともいろいろあるかと思うのだけれども、そういうことでその学校を希望しているわけだから、最終的に抽選で入れなかったお子さんが二つの学校にいたというようなことがあって、子どもは夢を持って、僕は中学へ行ってこういうふうに行きたいとか、そういうことで行くわけで、その辺のところはちょっと気になるなと思いつつ、その辺は保護者の方々のご理解をして、わかったというふうにならざるを得ないけれども、なったのかどうか。

その2点を伺いたいと思います。

○委員長 学務課長。

○学務課長 まず、お話にございました東金町小学校につきましては、花の木小学校から一部通学区域を変更させていただいたわけですが、変更になりましたのは、新宿六丁目2番街区と申しまして、現在まだどなたも住んでおられません。将来、あそこに、両方合わせて1,350戸ほど建設される予定ということがございまして、あらかじめ通学区域を変更したもので、今回についてはそういう意味ではまだ少ない数字になってございます。それが1点でございます。

それと、抽選になった学校で、選に漏れたケースが2校ともあったわけですが、一人一人の保護者の方にご意見を伺っているわけではないのですけれども、選に漏れたということと理由をおしかりをちょうだいしたとか、ご意見をいただいたということは今のところ伺

ていない状況でございます。

ただ、実際問題は、できる限り受け入れすべきではないかなと思うのですが、本田中学校と亀有中学校につきましては、いずれも校舎のキャパシティが限界に来ておりまして、非常に厳しい状況になってございます。そういうこともあって、恐らく、学校選択を始めた当初からこの2校については毎年抽選になってしまっているということでございます。将来、通学区域内の人口が増加するようなところがあれば、校舎の増築というのでも検討できないわけではないのですが、本田中学校については校舎を建てるスペースもかなり厳しいという状況でございます。現在は、申しわけございませんが、抽選で対応させていただいているというところでございます。

以上でございます。

○面田委員 わかりました。

○委員長 そのほかございますか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○委員長 それでは、次に移りたいと思います。

報告事項等2「平成22年度教育推進モデル校、教育研究指定校等の決定について」、ご説明をお願いいたします。

指導室長。

○指導室長 報告事項等2「平成22年度教育推進モデル校、教育研究指定校等の決定について」、ご報告をいたします。

今年度の教育推進モデル校、教育研究指定校が資料のように決定をいたしました。今年度新たに教育課題に取り組む教育推進モデル校ですけれども、課題Aである「学力向上に関すること」は双葉中学校をお願いいたしました。また、課題B「体力向上に関すること」は葛美中学校、課題C「健康教育の充実に関すること」は北野小学校、課題E「情報教育に関すること」は桜道中学校、それぞれ決定をさせていただきました。また、「その他」になります課題Gは、上平井小学校が「理科教育の充実に関すること」、また常盤中学校が「生徒の自治活動を生かした取組」ということで2校を決定いたしました。この教育推進モデル校ですけれども、昨年度からの継続校を含めると22校が指定となっております。

次に、教育研究指定校でございますが、新たに7校が指定校として決定をいたしました。今年度2年目の研究を迎え、研究発表会を行う学校が、資料にお示したように8校ございます。合わせまして15校ということでございます。

また、特別支援教育推進校として、新たに葛飾小学校1校を加えまして、計29校が推進校となっております。

さらに、グループ研究につきましては、3グループから応募がありましたので、そのとおり

決定をいたしました。教育振興ビジョンの推進に向けまして、各学校に対しましては、組織的・計画的な研究を進めていくよう、指導室も一緒になってやっていこうと考えております。さらに、研究の成果が各幼稚園、小・中学校へ広がり、実践化されるような手だても講じていきたいというふうに考えております。

昨年のこの場でもご報告いたしましたけれども、過去12年間、こういう研究奨励校等の指定を受けていない学校が昨年に比べて半減をいたしまして、現在残っている学校が小学校1校、中学校1校というところまでこぎつけました。過去5年間と少し狭めますと、小学校1校、中学校2校、3校がまだ研究に取り組んでいないというところがございます。ここにつきましては、次年度ぜひということで既にお願いをしてございまして、小学校については理科で研究を進めていただけるということで、今年度、事前の研究を始めたというふうに先日校長先生からお話をいただいたところでございます。

報告は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま指導室長のほうからご説明がありました件につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

面田委員。

○面田委員 今、指導室長から本当に力強いお話があって、ありがたいなと思いながら伺いました。私、昨年この話を聞いたときに、「えっ」という思いでございまして、その後、その学校で校長先生とお話をしたり、本当にご苦労なさっているのだなというのを聞きながら、いろいろ応援もしたいなと思ってきました。今回、新規校ということでその学校の名前も挙がっておりまして、頑張ってくださいっているなど。それはきっと指導室の支援や助言を受けて、そして、「やるぞ」という気持ちになったのだと思います。ありがとうございます。何といても、学校は、教師の指導力で子どもは変わるわけですから、そしてまた、授業力とか、そういう特別なものを持っていないと教師というのは務まらない仕事であるということを実感しているのだなと思いました。こういうことが増えていって、そういう自覚が一人一人の先生方にきちっと定着するように期待したいと思います。実際にこれから進んでいくにおいては、いろいろな面での支援が必要だと思います。どうぞよろしく申し上げます。

それからもう一つ、中学校の名前が随分たくさん新規校で出ているので、中学校が変わっていくかなと思ってうれしく思いました。

以上です。

○委員長 そのほかございましたら。

佐藤委員。

○佐藤委員 この教育研究指定校ですか、これは私も大変いいことだと思っております。先ほ

どの指導室長のお話ですと、あとやっていないところが小学校は1校ということでしたが、現場サイドから「これをやりたい」とか声が上がってくるのか、それとも、指導室のほうから「こういうのをやったらどうか」とか言うのか、どっちのほうなのか。

○委員長 指導室長。

○指導室長 過去何年間やっていないのでそろそろお取り組みいただいたらどうでしょうかというアプローチはございますけれども、具体的には各学校さんのほうで、うちの課題はこうで、これについて研究を進めたいということのお声のほうが圧倒的に多うございます。

○佐藤委員 わかりました。

○委員長 そのほかございますか。

それでは、次に移りたいと思います。

報告事項等3「平成22年度道徳授業地区公開講座について」、ご説明をお願いいたします。

指導室長。

○指導室長 それでは、報告事項等3「平成22年度道徳授業地区公開講座について」、ご報告をいたします。

この道徳授業地区公開講座は平成14年から全小・中学校で実施されているものでございます。この講座の趣旨でございますが、「小・中学校における道徳授業の活性化を図るとともに、保護者・区民の参加のもとに、家庭・学校・地域社会の連携による道徳教育の推進に資する」となっております。

そして、その講座のねらいでございますが、「子どもの豊かな心を育てるための意見交換会を通して、家庭・学校・地域社会が一体となった道徳教育を推進する」「道徳の授業の質を高め、道徳の時間の活性化を図る」「道徳の授業を公開することにより、開かれた学校を推進する」となっております。

道徳授業地区公開講座への家庭、地域の参加状況についてご報告をいたします。資料の数値は平成21年度と20年度を併記してございます。20年度のほうは括弧の数字になってございます。小・中学校、それぞれ少しコメントを入れたいと思います。

初めに小学校です。保護者の参加は増加していますけれども、区民の方の参加が減少しております。残念なことなのですが、意見交換会の参加者については大きな減少をしております。本年度は、各校の意見交換を充実させ、地域関係者や保護者の興味・関心を高めていただくというようなことで少し助言をしていきたいというふうに思っています。

次に、中学校でございます。保護者や区民の方の参加が減少しておりますけれども、逆に、意見交換会の参加については増加をしております。また、保護者や地域住民等の授業協力者が大きく増加をする傾向がございます。中学生は多感な成長期でもあり、多くの大人が指導にかかわることにより、子どもたちは大きく成長すると考えてございます。今後も道徳授業地区

公開講座を通して地域と連携を深めてまいりたいと思っています。

資料の裏面に今年度の道徳授業地区公開講座の一覧を掲載いたしました。公開日時を本区のホームページにも掲載し、広く保護者や区民の方の参加をお願いしていきたいと思っています。また、東京都のホームページにも掲載される予定でございます。

一覧表をごらんいただきますと、今年度、土曜日に多く実施されているということにお気づきになると思いますが、そこについても少し触れたいと思います。

土曜授業試行というところの成果だというふうに考えてございますけれども、多くの学校が土曜日または日曜日に開催してくれています。小学校は42校が土曜日、日曜日には3校が実施しています。昨年と比較いたしますと、昨年は小学校13校が土曜日でしたので、3倍以上の学校が土曜日に実施というふうになってございます。中学校は、今年度は土曜日が18校、日曜日が2校でございます。昨年、土曜日に実施した中学校は11校にとどまっておりますので、これも倍増近くなっております。土曜日の授業の試行において、地域参加型の教育活動という中では、まさにこの道徳授業地区公開講座などはその典型に当たるのかなというふうに考えています。今年度、意見交換等の会に参加していただける数がどれくらいふえるかなというのを楽しみにしております。

この前の土曜日の授業も何校かお邪魔しましたけれども、そこでは「薬物乱用教室」を小学校6年生で開いていただいて、お父さんたちも熱心に後ろで薬物乱用の教室に参加して下さっていたり、また、別な小学校では消防車の写生会を1年生から4年生まででしたか、3年生まででしたか、開いていただいて、保護者も子どもたちも目をきらきらさせて写生に取り組んでいました。「途中で火事があると、はしご車がいなくなっちゃう」というような声もありましたけれども、非常に熱心に取り組んでいる様子でございました。道徳授業地区公開講座だけでなく、さまざまな形で土曜授業も試行が進んでいるかなというところもあわせてご報告させていただきます。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいまの指導室長のご説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

松本委員。

○松本委員 2点申し上げます。

一つは、土曜授業試行に入って、土曜日に道徳授業地区公開が増えたということは大変よかったなと思います。今後の参加者が増えることを楽しみにしたいと思います。

2点目は、しばらくこれを続けてきたので、現場ではちょっとマンネリ化している傾向にあります。中学校で言いますと、保護者や地域の方を意識改革するのは意見交換会への参加を増やしていくことだと思いますけれども、土曜日になったので増えるということと、それから、

やり方を、人の話を聞くというのではなくて、来た方が参加できるようなほうに工夫を凝らし
ていくとますます効果が上がるのかなと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○委員長 そのほかございましたら。

秋本委員。

○秋本委員 学校における道徳授業の活性化を図るということで、私も、昨年、なるべく学校
に出向いて行って見せていただいたのですけれども、本年度も、昨年行っていない学校ものぞ
いてみようかなと思います。また、学校によっては、保護者が多く来ている学校と余り来てい
ない学校があるのではないかなというふう感じたこと。あとは、意見交換のところで、恥ず
かしいから意見を出せないという保護者も多くいるように思いました。そこら辺、いろいろ考
えるところがあるのかなと思います。たくさんの方に来ていただけるとありがたいと思います。
また、土曜日、日曜日にたくさん開催して下さるということで、どうなるか期待していると
ころでありますので、よろしくお願いします。

○委員長 そのほかございますか。

佐藤委員。

○佐藤委員 私も、この土曜日を道徳授業地区公開講座で使えて大変いいと思うのですが、先
日、松本先生も言われていたように、科学教室を土曜日にやりますね。私どもではよい歯の集
いなどをやるわけですけれども、そうすると、土曜日が各学校ばらばらになっているので、統
一というか、そういうことを考えているかどうか。それをちょっとお聞きしたい。

○委員長 指導室長。

○指導室長 実は先日の土曜日の授業のところでも、小学生がサッカーのクラブの公式戦があ
るということで2時間目で早退していくというような場面に遭遇いたしました。土曜に係る、
子どもたちに係るさまざまな事業が今後そういう形でさまざまバッティングしていくことは
想定をされています。今年度、検討委員会をもうそろそろ立ち上げますので、できれば次年度の
それぞれの団体さんのほうの年間計画が固まる前に本区の土曜授業についての方向性をお示し
し、なるべくそのようなトラブルのないような形で円滑に進めていきたいというふうに考えて
います。

○委員長 面田委員。

○面田委員 先日、ある学校の土曜授業日ということであったものですから、私も、どんなふ
うになるのかなと思って伺いました。そうしましたら、その学校では今までやっていた行事を
土曜日に持ってきてやったのですね。それを親子で鑑賞するのだということ。そうしたら、保
護者は20人ぐらいしかお見えにならないような感じで、「せっかく土曜日ということで授業をや
るのであれば、もう少し親御さんや保護者を引き込むような公開授業的になるといいですね」

とお話をしたのを思い出したのですけれども、先ほどからほかの委員の先生がおっしゃっていますが、やはり工夫が必要だと思うのですね。ですから、今回の道徳授業地区公開講座も、今までほかの日でやっていたけれども、今回、土曜日に持ってきたよみたいなことでやると、親御さんのほうもインパクトが薄いのかなと。土曜日にやって、ぜひ来てくださいというようなことが伝わるような授業の工夫、あるいは学校の工夫、そういうものを入れていただいて、準備を含めて、ぜひこの土曜授業が、ねらいに沿った、ねらいが実現できる、子どもたちにとっても保護者や地域にとっても、地域で育てていくのだということも体験できるようなものであってほしいなという思いを感じました。

○委員長 指導室長。

○指導室長 各委員から土曜の授業のことでアドバイスをいただきましてありがとうございました。今回、この道徳授業地区公開講座の置き方一つも、各学校によって、その一覧表にそれぞれ開始の時間が書いてございますけれども、それぞれ工夫が見てとれます。1時間目に置くと朝早いのであまり来てくれないので、2時間目から設定をして、3時間目に意見交換会をする。これを午前と午後で分けますと、意見交換会への参加率は多分下がるだろうとか、いろいろな工夫をされておられました。実際に回っていく中でも、道徳ではなかったですけども、セーフティ教室を2時間目に置いて、なるべく保護者の方の参加も促せるような形の時間割の工夫をされていたり、ある校長先生からは、「やはり中身だろう。今までと同じ形ではなくて、保護者や地域の方の参加型の行事に変えていく必要があるだろう。そういうふうな取組を進めたい」というお話もいただきました。今回、道徳授業地区公開講座を含めて、土曜の活用の仕方ということでは、各学校さまざま工夫をしていただいておりますし、また、周知の方法も各学校取り組んでくださっているというふうに聞いております。その成果の上がっているところの取組みをぜひ各学校へ広めていきながら、より参加型の、また、参加数の多い道徳授業地区公開講座を含めた土曜授業の活性化についても進めていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○面田委員 お願いいたします。

○委員長 そのほかございませんか。

それでは、私、委員長のほうから一つお尋ねいたします。

実は昔、教育現場におりまして、数十年振りに現場を見る機会をこうして与えていただいて、感動したこと、敬服したことが二つございます。一つは、君が代、それから、区歌がこうして各児童・生徒、学校で歌われるようになったということは素晴らしいことだと思います。もう一つは、きょうも議題になっております道徳授業が各学校、また教室でこうして行われ、しかも地域に公開されている、これは非常に素晴らしいことで、その裏には、学校側の努力、そし

て教育委員会の努力があったからこそ、こういう結果が出ているのだと思います。

これは大変素晴らしいことなのですが、先日、ある地域の方と懇談した折に、「大変素晴らしいことなんだけれども、さて、週1の道徳授業が果たしてどういように行われて、実態はどうかということを知っているか」というようなことを言われました。実態はさまざまだと思いますが、その中で、この道徳授業が、テレビを見せっぱなしにしている。テレビを通しての道徳授業はあっても結構だと思いますが、そこには発問もない、やりとりもないというような実態。それから、貴重な週1の道徳授業を別なものに割り当てているという実態もあるのではないかということにつきまして、学校並びに指導室としては、その実態の把握についてはいかがでしょうか。

指導室長。

○指導室長 以前は、確かに月曜日の1時間目に道徳の授業を置く学校さんが多くて、朝会が延びて、月曜日の1時間目は十分に時間がとれないために形骸化しているというふうなケースはありました。ただ、今は、月曜日の1校時に置くということはなく、きちんと45分なり50分なり時間をとれるような形での工夫をしております。また、どういよう道徳の授業を進めるかというの、やはり教員の姿勢、学校全体の道徳の年間指導計画のつくり、また、それをどういようふうに進めていくかという校長先生たちの経営にかかっているのではないかというふうに考えています。今年度、それから昨年度、2年間で中学校の教員全員に、道徳の研修を、本区はほかの区にはない取組として進めております。抵抗があるかなというふうにも考えていたのですけれども、参加する教員は非常に熱心で、こういよう道徳の授業の研究、また授業実践について学ぶ機会はほとんどなかったという声をいただいております。ぜひこういよう取組を、中学校だけではなくて、小学校にも何らかの形で進めていきながら、委員長ご指摘のよう、形骸化するとか、別のものに置きかえるといういよう授業が——現時点で、私どのほうで、そういようことがあるということ把握してございませぬけれども、今年度をかけまして道徳授業の充実については指導室としても力を入れて取り組んでいきたいというふうに考えてございませぬ。

○委員長 そのほかございませぬか。よろしいですか。

それでは、報告事項等4に移りたいと思ひます。「平成22年度中学生の職場体験について」、ご説明をお願いいたします。

指導室長。

○指導室長 報告事項等4「平成22年度中学生の職場体験について」、ご報告をさせていただきます。

本区では、望ましい社会性や勤労観・職業観を中学生に身につけさせるため、平成18年度から中学生の職場体験の具体的な取り組みを進めているところでございませぬ。おかげさまで、昨年度は区内24校全校、2,738名の全生徒が965の事業所におきまして5日間の職場体験を行うこ

とができました。その内容、内訳につきましては資料にお示ししたところでございます。

最近の傾向でございますけれども、区関係の受け入れ先が増加の傾向が見られるところでございます。実施後、各事業所に生徒の受け入れに対しての感謝状を贈らせていただきました。また、区内の小・中学校においても受け入れにご協力をいただきました。実は昨日夕刻、私立の幼稚園長会に今年度のお願いに上がったのですけれども、この感謝状についてそれぞれの園長さんから「大変うれしい」というお声をいただきました。私立の幼稚園さんにもさまざまなご協力をいただいているところでございます。

この職場体験の成果といたしまして、生徒が体験を通して仕事の大切さや働く意味を学んだということが挙げられると思います。事業所からは、「生徒が真剣に取り組んでくれている」という評価をいただいております。きのうの幼稚園長会の感想は、「男の子が幼稚園に来て、本当に園児を優しく扱ってくれている。そういう心を育てる非常にいい経験ではないか」というようなお声もいただきました。

今日の資料には、実践事例として、葛美中学校の取組を載せさせていただきました。葛美中学校は、昨年度、東京都の職場体験発表会で実践報告をいたしました。こちらにその資料がございますけれども、「夢・わくわくWORK」ということで葛美中学校が作った報告でございます。それぞれの事業所で実際に職場体験をしている生徒たちの様子がまとめられているものでございます。

今年度の職場体験でございますけれども、昨年同様、全校5日間実施ということで進めてございます。各学校の実施につきましては資料にお載せいたしました。教育委員会の皆様におかれましても、また今年度も各事業所へのあいさつ等でお力添えいただくことをお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

報告は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいまの指導室長のご説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

松本委員。

○松本委員 一つは、職場体験も軌道に乗ってきたところなのですけれども、始まったころの原点に戻って注意していきたいことがあります。それは、職場体験が始まる当時だったと思うのですけれども、足立区において、生活科で校外に子どもが出ていったときに大きな交通事故に遭いまして亡くなったという件がありました。また、同じころだと思うのですけれども、奥戸中学校で生徒がけがをして少し大変でした。ということで、安全にやるということをもう一度原点に戻っていただきたいと思います。

2点目は、授業時数の確保について相当努力している中で5日間実施しますので、ぜひとも効果を上げられるように、課題も対応していただいておりますけれども、支援していきたいと

思いますので、よろしく申し上げます。

以上です。

○委員長 指導室長。

○指導室長 委員ご指摘のように、何年か進めていく中で、やはり原点の部分ということは再確認する必要があるというふうに思っております。昨年は新型インフルエンザの影響で、そういう意味での危機管理の意識が高まっているというふうに思いますけれども、生徒の安全、それから、受け入れ先にご迷惑をかけないというような点で、指導・助言等、改めて進めていきたいというふうに考えております。

また、5日間の体験をどのように生かしていくか。授業時数との関係の中でも、キャリア教育の視点に立った実践をそれぞれの授業の中でまた生かすなどという工夫はできるというふうに思っておりますので、キャリア教育の視点から、全教育活動を通じて、子どもたちの望ましい勤労観・職業観が育成されるように、これについてもまた指導・助言を進めていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○委員長 そのほかございませんでしょうか。

秋本委員。

○秋本委員 昨年度は、指導室長が言われたとおり、インフルエンザの影響で各学校とも苦戦したのではないかなと思います。本年度はスムーズに何事もなくいかれるといいと思います。私たちも各事業所を回ってお願いに伺ったところですが、この間、お願いしたところに行きましたら、青木区長より、受け入れてくださった感謝状が飾ってあったのですけれども、そういうところを見ますと私たちもすごくうれしく思うのです。感謝状は前から出していたわけですね。本年度から飾ってくださったようなこともあるので、また私たちも各事業所等を回ったほうがいいのでしょうか。そういう作戦もまた出していると思うのですけれども。

○委員長 指導室長。

○指導室長 事業所さんによっては、趣旨のご理解に温度差があったりですとか、事業所の団体のところでもさまざまなご意見をいただくという場面も多くございます。先ほどの感謝状についてもさまざまなお話をいただいております。今年度につきましても、また教育委員さん方のお力をお借りしまして、円滑に職場体験が進められるようにお力添えをいただきたいというふうに考えております。詳細につきましては、日程調整等を進めながら、またご相談をさせていただきたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長 そのほかございませんか。

面田委員。

○面田委員 全部の中学校が5日間実施できる、これは本当に素晴らしいことだと思います。同時に、下町とか、葛飾の人情の厚さとか、人の心とか気持ちとか、そういうものが本当に厚く下に流れているなというのを改めて思いました。先ほど指導室長から「望ましい勤労観や責任感を育成する大事な場ととらえて頑張っってやっていく」というお話があって、そのとおりで、本当にありがたいと思いました。それと同時に、今、世の中で、規範意識が低いとか、もっと小さいころから規範意識をきちんと育てようとかという面もあるわけですから、そういうところからいきますと、しかっってもらふことも大事なことで、ぜひその辺のところもありがたく受け入れて、そして子どもたちが育つものとなるのだというふうに受けとめて、前向きにこのプランが進むことを期待したいと思うのですね。「しかっってもらってありがとう」というような感想とかはあるのでしょうか、ないのでしょうか。

○委員長 指導室長。

○指導室長 直接、「しかっってもらってありがとう」というのは私どもには届いていないのですけれども、「仕事の大変さがわかった」ですとか、「大人の中で5日間大変だった。緊張もしたし、注意も指導も受けたけれども、すごくいい体験だった」という声はたくさん届いています。また、第1希望ではなくて別な職種を体験したある中学生からは「自分がイメージしていた職業以外に体験できたことで視野が広がった」というような感想をくれた中学生もおりました。職業体験、社会体験という意味では、大人の現場というところを子どもが体験するというのは非常に大事なことだと思いますし、そこでの大人とのつながりということは、委員ご指摘のように、怒られることも褒められることも大事な心の経験ではないかなというふうに考えております。その辺のご理解を各事業所により深く浸透していくようにお話を進めていきたいというふうに考えてございます。

○面田委員 よろしくお願ひします。

○委員長 そのほかございませんでしょうか。

佐藤委員。

○佐藤委員 このページの1枚目の「官公署(所)・公共交通機関等 のべ73カ所」の一番下の「その他」に括弧していろいろ書いてありますが、「1」というのはどういうことなのでしょうか。

○委員長 指導室長。

○指導室長 これは、それぞれが1と。例えば職安が1というふうに見ていただければと思います。

○佐藤委員 はい、わかりました。

○委員長 そのほかございませんか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○委員長 それでは、最後の報告事項に移りたいと思います。

報告事項等5「エンジョイスポーツ2010の実施結果について」、ご説明をお願いいたします。
生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 では、報告事項等5「エンジョイスポーツ2010の実施結果について」、ご報告をいたします。

当日は快晴で、絶好の日和ということになりまして、委員の全員の皆様にご参加いただきまして成功することができました。ありがとうございます。

目的といたしましては、子どもと高齢者を対象に、スポーツに親しみ思い出に残るイベントとして、ジュニアエンジョイ、シルバーエンジョイ、両大会に係る総合開会式とあわせて、子どもたちに夢を与えるために一流選手等の指導による各スポーツ教室という内容で開催いたしました。

まず、総合開会式でございますが、午前9時から10時までの時間でございます。来賓の皆様、家族の方々、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

裏面を見ていただければと思います。エンジョイスポーツ2010の参加人数報告でございます。総合開会式には、当初、連盟等を通じまして4,000人の希望でありましたが、当日、サッカーチーム等で200人ほどということで希望がございまして、4,200名ということでございます。見学者は前年並み1,500人ということでございます。

ジュニアエンジョイで各教室が行われましたが、それについてのご報告でございます。

まず、中畑さんを中心とする元読売巨人軍の少年野球教室では、6年生のみの参加でございましたが、241人。奥戸球場の中がいっぱいになる状況でございました。その他、5年生、4年生等、また親御さん等の見学者が昨年より50名ほどふえまして350人でございます。

また、安永聡太郎さんほかお2人の少年少女サッカー教室でございますが、こちらは987人でございます。人数的には昨年より238人ほど減っておりますが、これは、なでしこジャパンの皆様よりは集客がちょっと低めだったという状況でございました。

続きまして、竹内実さんの少年少女バレーボール教室でございます。こちらは、昨年は大体育室のほうで行ったのですが、ことしは小体育室ということで、小学生のみに限定させていただきました。結果的に191人ということで、マイナス92人の参加でありました。ただ、お母様方を含めて、周りがいっぱいになるぐらい見ていただいておりますので、かなり熱のこもった教室になった状況でございます。

続きまして、エイトホールで行われました西沢美佳さんの少年少女卓球教室ということでございます。こちらは、昨年より36人増えまして85人の参加でございます。実行委員の方からお聞きしたのですが、水元中、青葉中、新小岩中ということで、中学校の部活の単位での参加が増えたということを聞いております。こちらのほうもかなり盛況だということでもあります。

続きまして、日立サンロッカーズの少年少女バスケットボール教室でございます。こちらは大体育室で午後から行いまして、358人の参加がございました。こちらは、サンロッカーズの皆さんがお子さんとのコミュニケーションが非常に巧みでございまして、お子さんたちもどんどん乗ってきまして、さらにサンロッカーズの方も乗ってプレーを見せてくれたというようないいサイクルができたと聞いております。

続きまして、少年少女剣道教室でございます。こちらは、昨年、武道室で行ったのですが、今回は大体育室のほうで行いました。参加予定人数100名ということでございましたが、会場に余裕がありましたので、216人、昨年比108人の増ということで大々的に行われました。スペースがかなり広がったものですから、ふだんの道場ではできないようなかき稽古とか、アクティブな動きも十分できたということで、非常にいいお話をお聞きしております。

続きましては、シルバーエンジョイの状況でございます。当日は、グラウンドゴルフ、シニアソフトテニス大会、あと、場所が変わりますが、シニア軟式野球、あと、夜の部でございますが、シニア社交ダンスの集いということでありました。グラウンドゴルフも参加人数が昨年より32人の増加。また、シニアのほうの社交ダンスでございますが、参加の人数は50人減っておりますが、中身としてはかなり盛り上がったという話を聞いております。区長が社交ダンスがかなり巧みですので、皆さんと一緒に踊られたということです。

トータルでございますが、6,598人の参加と3,170人の見学者。これは、昨年、オリンピック招致の特別イベントで、水泳の田中雅美さんの関係や、大塚製薬の水分補給ということの講座ということで、トータルで1,000人ちょっとの特別講座がございましたので、それを除きますと、昨年より30人ぐらい増えたような参加の状況でございます。

また、当日でございますが、昨年よりも熱中症等で倒れるお子さんたちが少なく、水分補給を頻繁にするようにということをお話をしていたしました。それについては、メール等で見苦しいのではないかなというようにご指摘をいただいておりますけれども、これはちょっとやむを得ないことではないかなと思っております。また、救急車等を呼ぶ件数もことしはゼロ件でございましたので、問題なくできたと思います。小さな事故としては、中畑さんの指導でかなり熱っぽくやっていた関係がありましたので、ご近所の方から「声がうるさい」という通報が1件あったということを知っております。ですので、その後、ボリュームを落としたということになりました。いずれも、各教室とも、基本を大切にご指導いただきまして、また、あいさつだとか、指導者の目を見て返事をしなさいとか、そういうことを徹底してやっていたということで、指導者の皆さんもそうですが、生徒の皆さんも非常に気持ちよく帰っていただいたというふうに聞いております。

以上、報告を終わらせていただきます。

○委員長 ありがとうございます。

ただいまの生涯スポーツ課長のご説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

松本委員。

○松本委員 感想です。

日本の誇る選手や指導者の指導を受ける子どもたちを見ていますと、輝いていまして、本当によかったなと思います。多くの区内在住の人々が、ボランティアの要る引率やサブについていらっしやいましたけれども、それにも感動しました。最後に野球場に行きまして、水野選手が投げて中畑選手が打った場面があったのですけれども、青空遠く飛んでいって電線にボールが当たるといふ大きな当たりを見て、さすがという歓声が上がったり、熱の入った指導にも感心しました。本当によかったと思います。ご苦労さまでした。

○委員長 そのほかございませんか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○委員長 それでは、報告事項は以上で終わりたいと思います。

ここで、教育委員の皆様より発言がありましたら、どうぞお願いいたします。

(「ありません」の声あり)

○委員長 ないようでありますので、続いて、「その他」の項に移りたいと思います。

庶務課長、よろしくお願いいたします。

○庶務課長 まず、1「資料配付」につきましては、今回はございません。

2「出席依頼」でございます。6月8日、シンフォニーヒルズの小学生狂言教室につきましては、面田委員にお願いをいたします。それから、6月25日金曜日、総合スポーツセンター大体育室の中学校特別支援学級連合体育祭でございます。これは松本委員にお願いをいたします。よろしくお願いをいたします。

それから、次回の教育委員会の予定でございます。5月27日木曜日午前10時からでございます。午後は視察を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

そのほかございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○委員長 それでは、以上をもちまして、平成22年教育委員会第5回定例会をすべて終了いたします。大変ありがとうございました。

閉会時刻 11時00分